

第14回 FMくらら857放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成30年1月30日(火) 11時00分～11時54分

2. 開催場所 ケーブルテレビ株式会社

3. 委員出席

審議委員総数 8名

出席委員数 5名

■出席委員(敬称略)

茅原 剛 会長(栃木市総合政策部長)

岸 英司 副会長(栃木商工会議所事務局長代行 総務課長)

高崎 尚之 委員(栃木市産業振興部長 栃木市観光協会専務理事)

増山 政廣 委員(栃木市消防本部消防長)

堀江 貴浩 委員(栃木青年会議所理事長)

■放送事業者側出席者

高田 光浩 (ケーブルテレビ株式会社 代表取締役)

木村 嘉孝 (コンテンツ部課長)

清水 研児 (コンテンツ部FMグループ係長)

世取 山大輔 (コンテンツ部FMグループ)

4. 報告事項

事業運営状況に関する報告に続き、対象番組等について、各委員より感想・意見・疑問点等を挙げていただき、他の委員と意見を交わす形式にて議事を進行した。必要に応じて放送事業者側出席者が説明・回答した。

また、栃木青年会議所理事長の任期満了に伴い新しく理事長に就任した、堀江貴浩氏が委員に就いた。

5. 議事

①1月3日(金) 13時放送

「Koikoi-kulala リポート・JR岩舟駅“聖地巡礼”」 約10分

(事務局) 新海誠監督の映画『秒速5センチメートル』の舞台となった、栃木市岩舟町のJR岩舟駅をリポートした。同監督話題の映画『君の名は。』がTV地上波で初放送されることになり、正月期間中を利用

- して地元を訪れる“聖地巡礼”の観光客がいるのか、レポートした。
- (委員) 一か八かのレポートもたまには良いかと思う。楽しかった。2~3人の話が聞ければ良かった。その場の雰囲気伝えて欲しかった。
- (委員) 身近な岩舟駅が“聖地”だとは知らなかった。テレビ放映からの企画だが、非常にマニアックな内容だった。リスナーがどこまで“聖地巡礼”を知っていたのか、もう少し丁寧に説明すると良い。ただ面白いレポートが増えているように感じる。
- (委員) 岩舟駅に京都から来ている事に驚いた。「岩舟駅」が全国的に知られているんだと思った。逆に栃木市としては、そこをPRしなければいけない。
- (事務局) 耳でしか入ってこない媒体ですので、情景描写もしっかり出来るように指導したい。

②1月5日(金) 14時放送

「新春特別番組 栃木市ふるさと大使・春風亭柳橋さん」 54分

- (事務局) 栃木市ふるさと大使のひとり、落語家の春風亭柳橋さんをコエドスタジオにお迎えして放送。落語を身近に感じてもらう、また「栃木市ふるさと大使」の活躍を知ってもらい、地域への愛着を深めてもらおうとのねらいで放送した。この企画では7日(日)にも、同じふるさと大使で落語家の古今亭志ん橋さんも出演した。
- (委員) 噺家の春風亭柳橋さんの話は安定感がありとても良かった。54分あっという間に過ぎてしまった。事前に「ふるさと大使」の説明がもっとあればよかった。
- (委員) 当日も生で放送を聴いたが、聞き直して改めて良い番組だった。「ふるさと大使」の良いところをパーソナリティが上手く引き出していた。ただ話し方に親しみがあまりすぎたような感じがした。番組的には良いのかもしれないが、距離感は重要だ。
- (委員) 狙い通りの番組だった。「新春」にピッタリの内容だった。落語の魅力も伝わり、地元栃木高校の出身で、学生時代の話もあって良かった。栃木市として放送と非常に良いコラボレーションが出来た。
- (委員) 落語に詳しくないので話が長く感じた。途中から聴いた人にはどうなのだろうか。栃木市ふるさと大使が関わるイベントなどについて触れてみてはどうか。
- (事務局) 番組の構成、距離感については考慮していきたい。次回の番組に生かしたい。

③その他

- (委員) 良い番組が多いのもっと多くの方に聴いていただきたい。

(委員)「栃木市ふるさと大使」の番組が今後も放送になれば、栃木市に住んだことのない人も出演すると思う。うまく「ふるさと大使の活動」「栃木市の良さ」を引き出して欲しい

(事務局)ケーブルテレビのコミュニティチャンネルとの連携の機会を多くしていきたい。

6. 審議機関の答申又は概要の公表

FMくらら857ホームページに掲載(平成30年2月掲載)

■次回の日程開催

3月27日(火) 午前11時予定